

## 「部活動を支援する会」とは

部活動は、生徒にとって中学校生活を考える上で欠かすことのできないものです。また、部活動によって学校全体が活気あり、落ち着いたものとなっている側面もあります。

今までは、生徒・保護者にとって中学校に部活動があることが当然という考え方が主流でした。しかし、平成14年度の教育課程の改訂で、部活動の存続が顧問教諭の自主的・自発的活動に完全に委ねられることになりました。少子化によるクラスの減少とそれに伴う職員減・先生の高齢化・専門知識をもつ先生がいないなど、顧問の確保が難しくなってきました。

平成11年に各部の代表者が集まり、コミュニケーションをとっていこうと代表者会が発足しました。出来る限り部活動を存続し、維持を図るには、保護者として何が出来るか、どうすれば良いかと、いろいろ話し合ってきました。

平成14年に名称を「部活動を支援する会」に改めると、まず資金面として部活加入者から支援基金を募り、横浜市立中学校部活動指導者派遣要項にのっとり、外部指導者を依頼する為の支援基金ができました。その後、横浜市の制度が充実したこともあり、平成29年からは支援基金の家庭からの集金を停止しています。

活動としては、各学期に代表者が集まり、各部活の報告をし、生徒たちの活動・保護者の活動などを情報交換しています。また、例年10月末には、有志の部活動でふれあいバザーに出店するなどしています。